

▽ 山口 真也 准教授 YAMAGUCHI, Shinya



学 科： 日本文化学科

担当科目： 図書館情報学・文化情報学

学歴等のプロフィール

①【 主要学歴 】②【 学 位 】③【 所属学会 】④【 主要な社会的活動 】

- ①図書館情報大学大学院修士課程修了
- ②修士
- ③図書館情報学会・西日本図書館学会・日本図書館協会・学校図書館問題研究会・日本図書館研究会・日本学校図書館学会
- ④日本図書館研究会評議員、沖縄県図書館協会理事(機関誌部会部会長)、那覇市立図書館協議会会長

教育活動

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育活動・方法の実践例		
1)レファレンスサービス演習	2010年4月～8月 2010年9月～2011年2月	図書館司書資格課程必修科目(前期後期・全16回)。本学の司書資格課程のカリキュラムでは「実習科目」(現場実習)が必修科目としても、選択科目としても設けられていないため、図書館サービスのあり方をより具体的・実践的に学習するため「ロールプレイ」を取り入れた演習を実施。図書館員役を受講生が、利用者役を教員とアルバイト学生(山口)が担当し、質問→インタビュー→調査→回答、というレファレンスサービスの一連の流れを学習、図書館司書の役割・働きを実践的に学習できるようプログラムを設けている。本授業での取り組みは2010年度FD支援プログラムに採用され、プログラムの質の向上に努めた。
2)資料組織概説II	2010年4月～8月	図書館司書資格課程の必修科目。図書館における資料組織化業務の1つである目録作業の理論を学ぶ授業(前期・全16回)。本授業の中心はNCR(日本目録規則)の使い方をマスターすることにあるが、その理論は非常に難解であり、1回1回の授業内容を確実に理解し、積み上げていく必要がある。そこで、授業開始時にはその日の到達目標を示し、終了時には到達目標に示した内容を理解できたかをチェックさ

		せ、さらに次回に積み残しのないように、わからないことはその日のうちに解決するようにと伝えて、授業後 30 分は教室に残って学生への個別指導・質問受付などを行った。その結果、例年よりも単位取得者が増加し、授業評価アンケートでの学生満足度(達成感)も高まった。
3) 資料組織演習 II	2010 年 4 月～8 月 2010 年 9 月～2011 年 2 月	図書館司書資格課程の必修科目。図書館における資料組織化業務の 1 つである目録作業の理論を学ぶ授業(前期後期・全 16 回)。前提科目である「資料組織概説 II」を受講し、単位を得た学生だけが受講できる上級クラス。他大学でのカリキュラムでは、資料組織に関するクラスは概説と演習 2 クラスだけだが、本学では、「地域資料(地域出版)の充実」という地域性を考慮し、目録作成技術を高めるという目的から、資料組織に関する授業は 4 クラス(2 倍のクラス数)が開講されている。本授業も比較的余裕を持ったカリキュラムを設計できることから、他大学ではあまり取り上げない図書以外の資料(録音資料・映像資料・継続資料)などの書誌作成ルールも学習している。本授業でも終了後 30 分は教室に残って学生への個別指導・質問受付などを行った。その結果、例年よりも単位取得者が増加し、授業評価アンケートでの学生満足度(達成感)も高まった。
4) 演習 I～IV	2010 年 4 月～8 月 2010 年 9 月～2011 年 2 月	学科必修科目であるゼミナール、3 年生・4 年生の同時開講(前期後期、全 30 回)。前期はゼミのテーマである「文化情報学研究」を理解し、3 年生はテーマ決定・プレゼン、4 年生は卒業論文の中間報告を行う。4 年生による 3 年生へのチューター制度を導入し、ゼミテーマの決定支援、文献検索の補助、調査実施の際の助言などを行う。後期は 3 年生によるテーマ発表(1 人 90 分)を毎週行い(4 年生はチューターごとの発表支援・助言)、卒業研究に向けてのプレ調査を進める。発表前には 1 人あたり 10 時間程度の事前指導を行い、卒業論文として最低レベルまでの到達を目指している。2010 年度はゼミ生 14 名全員がこのレベルに到達できた。
5) 卒業論文	2010 年 4 月～8 月 2010 年 9 月～2011 年 2 月	学科必修科目である卒業論文指導のためのクラス(前期後期、全 30 回)。前期前半は前年度の個人研究発表をベースとして、序論の作成による卒業研究の計画・学術論文の文体の習得を目指し、前期後半は目次章立ての発表会を毎週 3 名ずつ行う。後期は全体での授業を 2 回行った後、個別指導期間として 1 週間に 1 人 30 分ずつ、全 16 名の卒業論文の指導を行った。卒業論文の成果は『文化情報学研究』第 11 号として編纂・出版し、県内外の図書館に寄贈した。卒業研究の成果は「卒業論文発表会」としてゼミ単位での報告会を催した。2010 年度はゼミ生 16 名全員が卒業論文を提出し、優秀な成績を得た。
6) 文化情報学概論	2010 年 4 月～8 月	学科専門科目(選択必修科目、前期、全 16 回)。人文情報コ

		<p>一スの基礎科目の1つと位置づけ、文化情報を発信するためのルール・マナーと技術を幅広く学習。前半の情報発信のルール・マナーの学習においては、小テストを3回実施し、テスト実施後すぐに点数化して返却することで、毎回の授業参加意欲を高めるように心がけた。後半のソフトウェア制作(民話朗読データ制作)では、制作したソフトを公開(YOUTUBEにアップロード)することを初めて試み、課題作成に対する意欲の喚起と、大学での学習内容が社会とつながっていることを意識させるように心がけた。</p>
7)文化情報学基礎演習	2010年9月～2011年2月	<p>学科専門科目(選択必修科目、全16回)。人文情報コースの基礎科目の1つと位置づけ、文化情報を発信するためのルール・マナーと技術を幅広く学習。前期の「文化情報学概論」で制作した音声データをもとにFlashアニメーションを制作し、イラストをもとにオリジナルの絵本を制作する授業。本授業でも大学での学習内容が社会とつながっていることを意識させるべく、①Flashアニメーションは地域の公民館で上映し、②オリジナル絵本は那覇市内の公共図書館や学校図書館に寄贈し、いずれも好評を得た。</p>

主な教育活動	年月日	摘要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
1)レファレンスサービス演習	2010年4月～8月 2010年9月～2011年2月	<p>教科書は使用せず、オリジナルのテキストを作成。毎回配布した。</p> <p>ロールプレイ演習の模範として、授業担当者(山口)とアルバイト学生による模範対応VTRを制作。(制作にあたっては「沖縄国際大学2010年度FD支援プログラム」の補助を得た)</p>
2)資料組織概説Ⅱ	2010年4月～8月	教科書は使用せず、オリジナルのテキストを作成。毎回配布した。
3)資料組織演習Ⅱ	2010年4月～8月 2010年9月～2011年2月	教科書は使用せず、オリジナルのテキストを作成。毎回配布した。
4)演習Ⅰ～Ⅳ	2010年4月～8月 2010年9月～2011年2月	教科書は使用せず、オリジナルのテキストを作成。毎回配布した。
5)卒業論文	2010年4月～8月 2010年9月～2011年2月	<p>教科書は使用せず、オリジナルのテキストを作成。毎回配布した。</p> <p>卒業論文の成果は『文化情報学研究』第11号として編纂・出版し、次年度の「演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文」にてテキストとして活用した。</p>
6)文化情報学概論	2010年4月～8月	教科書は使用せず、オリジナルのテキストを作成。毎回配布した。

7)文化情報学基礎演習	2010年9月～2011年2月	教科書は使用せず、オリジナルのテキストを作成。毎回配布した。 見本作品として簡単なアニメーション作品を制作した。
-------------	-----------------	---

主な教育活動	年月日	摘要
3. 学生支援活動		
1)学習支援		
入学前オリエンテーション	2010年10月～12月(2回)	企画・準備・当日の運営。AO入試、推薦入試合格者に対して、残りの高校生活の過ごし方、入学前課題の出題意図と提出方法を説明し、入学後の大学生活への移行をスムーズにさせるための参加同士のワークショップなどを開催した。
履修指導・学習不振者の指導	2010年4月～2011年2月(随時)	取得単位数が16単位未満の学生を面談。保護者にも連絡をとり、生活態度や学習態度の改善方法を個別に検討。
ゼミナール希望調査	2010年12月	2年生を対象として、3年生からのゼミナール所属の希望調査を実施。人数が多いゼミ希望者には個別に面談を行い、各自が研究したいテーマなどをふまえてアドバイスを与え、ゼミの所属を決定した。 希望調査書未提出者＝学習不審者であることが多いため、希望用紙未提出者に連絡をとり、個別に面談をして履修指導や学業への意欲喚起などを行った。
2)キャリア支援	2010年4月～2011年2月(随時)	3年生向けのゼミナールにて、本学キャリアセンターのアドバイザーに依頼し、就職活動への意欲を高めるためのガイダンスを実施。 1年生必修科目「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」にて本学キャリアセンターのアドバイザーに依頼し、キャリア意識を高めるためのガイダンス・ワークショップを合同授業として実施。講師との内容調整、当日の司会などのコーディネートを担当した。
3)部活動	2010年4月～2011年3月(随時)	放送研究部顧問を務める。2010年度はNHK全国大学放送コンテスト決勝出場などの成果を残した。
4)図書館実習の企画・実施	2010年9月	「レファレンスサービス演習」の受講を終えた学生4名を対象として、那覇市立繁多川図書館の業務委託者である「NPO法人ゆいベース・エル」の協力を得て、図書館での現場実習を実施。図書館司書志望者の適性把握、キャリア形成意識の向上の場を設けた。

主な教育活動	年月日	摘要
4. 学外での教育活動		
1)レファレンス—その業務内容と図書館員の役割	2010年6月21日	「沖縄県公共図書館連絡協議会2010年度第2回研修会」に新任職員研修会講師として参加。公共図書館の新任職員向けの研修。著作権法と利用者サービスの関係について、特に複製権との関わりを中心に説明し、図書館員の専門性について言及した。

2) 著作権—著作権保護からみる図書館員の専門性	2010年6月22日	「沖縄県公共図書館連絡協議会 2010年度第2回研修会」に新任職員研修会講師として参加。公共図書館の新任職員向けの研修。著作権法と利用者サービスの関係について、特に複製権との関わりを中心に説明し、図書館員の専門性について論じた。
3) 学校教育と著作権—学校教職員のための著作権講座	2009年8月26日	「恩納村立喜瀬武原幼小中学校校内研修会」に講師として参加。幼稚園・小学校・中学校における著作権法について学ぶことにより、学校運営上の情報の取り扱い方を再検討し、学校職員の資質向上を図った。
4) 学校教育と個人情報保護	2009年8月14日	「2009年度沖縄国際大学教員免許更新制講座」に講師として参加。学校教育と個人情報保護との関係について、具体的な事例をもとに説明。沖縄県で2009年5月に報道された「指導・支援カルテ」に対する個人情報保護制度上の問題点についても報告した。
5) 調べ学習の展開における学校司書の役割—学校図書館担当教員(司書教諭等)へのアンケート調査を手がかりとして	2009年8月6日	「沖縄県県立高等学校事務職員研修(学校司書)」に講師として参加。新学習指導要領における調べ学習の位置づけを明確にし、県内の公立高校で勤務する司書教諭へのアンケート結果をもとに、調べ学習の展開における学校司書の役割について報告した。
6) デジタル民話紙芝居の上映	2009年2月14日	読谷村まなびフェスタにて。読谷村に伝わる民話を題材として、大学生(「文化情報学基礎演習」受講者)とともに制作したデジタル民話紙芝居を上映。上映作品は「はえとすずめ」「十二支のおはなし」「かめのおんがえし」「さるのマブヤー」。(同イベントは2008年2月にも開催した)
7) 司書教諭の役割—調べ学習にみる問題点と司書教諭による支援の必要性を中心に—	2008年11月21日	「平成20年度沖縄県高等学校司書教諭等研修会」に講師として参加。県立高等学校の司書教諭の役割、期待される職務について、調べ学習との関わりを中心に解説。学習指導要領の改訂により、調べ学習支援という司書教諭の役割はどのように変化するのか、学校司書との連携はどのように行えばよいのか、調べ学習の展開のための具体的な支援業務とは何か、などのテーマを取りあげた。
8) 学校図書館と著作権法—読書活動・学習活動との関わりを中心に	2008年9月11日	「平成20年度那覇地区司書研修会」に講師として参加。学校図書館と著作権法との関わりについて、様々な事例を上げて解説。学校司書の専門性を検討した。
9) 学校図書館司書として、今、考えたいこと—プライバシーの保護と読書指導	2008年7月7日	「沖縄県中部学校図書館協議会平成20年度総会・講演会」に講師として参加。貸出記録を読書指導資料として活用してよいかどうか、という問題を、「図書館の自由に関する宣言」の解説書をベースに解説。解説書では触れられていない新しい問題点を紹介し、現場の学校図書館担当者と共に意

		見交換を行った。
10) 国語教育と学校図書館—「調べ学習」における学校図書館の活用法と問題点	2008年6月17日	「沖縄県高校国語教育研究会平成20年度総会」に講師として参加。国語教育と、学校図書館を活用した調べ学習との関わりを考察。国語科が、調べ学習と学校図書館を結びつける、潜在的な力を持っていること、国語が目指しているところと、図書館学の分野で言われている、調べ学習の支援機能はかなり近いことをふまえて、国語教育分野と学校図書館教育分野の協力が必要であると提案した。
11) 学校図書館と著作権法—著作権保護と学校司書の専門性—	2007年12月14日	「平成19年度沖縄県高等学校図書館協議会司書研修会」に講師として参加。学校図書館に関わる具体的な事例を紹介しながら、学校図書館サービスと複製権との関わりを中心に、著作権法への理解を求めた。
12) 子ども向け図書館利用指導研究—しつけ絵本を使った図書館員による公衆道徳指導—	2007年11月～12月	「ゆいベース・エル上級図書館講座」に講師として参加。図書館利用マナー指導用しつけ絵本の効果を紹介するとともに、②公共図書館における利用マナー問題の現状と対策にみる問題点を話し合い、参加者とともに、利用マナー問題を解決するための「しつけ絵本」の作成に取り組んだ。(全3回の研修会)
13) 学校図書館と個人情報・プライバシー保護—神奈川県の高校図書館を事例として—	2007年8月7日	「平成19年度神奈川県立学校 学校司書等研修講座」に講師として参加。神奈川県個人情報保護条例と県立学校図書館との関わりを確認するとともに、アンケート調査結果を参考に、貸出記録の管理、利用状況を紹介し、調査から見てきた問題点について、参加者の皆様と共に考察した。
14) 図書館員の役割・専門性	2007年7月22日	「ゆいベース・エル初級図書館講座」に講師として参加。図書館員の役割について、「知る自由・読書の自由の保障」をテーマに、初任者向けに解説した。
15) 公共図書館と個人情報・プライバシー保護—個人情報保護条例に基づく図書館業務の再検討—	2007年2月26日	「ゆいベース・エル中級図書館講座」に講師として参加。那覇市の職員を対象とする「那覇市個人情報保護条例」の内容をふまえて、公共図書館と個人情報保護との関わりを整理するとともに、図書館現場での事例を題材として、参加者の皆様と共に、望ましい個人情報の取り扱いについて理解を深めた。
16) 公共図書館と著作権保護—著作権保護と司書の専門性—	2006年12月8日	「沖縄県公共図書館連絡協議会研修会」に講師として参加。著作権法の構造は複雑であり、図書館での事例に当てはめて考える上で、解釈が難しい部分も少なくない。公共図書館現場が抱える問題を事前に募り、その質問に対する回答するという形で、公共図書館における著作権保護の望ましいあり方について考察した。
17) 学校図書館における個人情報保護—公立小中学校図書館における図	2006年8月14日	「うるま市学校司書研究会」に講師として参加。公立小中学校を対象とする個人情報保護条例の内容をふまえて、学校図書館と個人情報保護との関わりを整理するとともに、学校図書館現場での事例を題材として、学校図書館における望

書館業務の再検討 —		ましい読書記録の取り扱いについて理解を深める。
18) 学校図書館と 沖縄県図書館協 議会—雇用状況調 査結果の報告—	2006年6月16日	「平成18年度沖縄県高等学校図書館協議会総会研修会」に講師として参加。沖縄県図書館協会調査研究部会において2005年度から取り組んでいる「今後の望ましい学校図書館の運営方法(職員配置)の考察」をテーマとするアンケート調査とインタビュー調査の結果を代表者として紹介。二職種併置をめぐる高校正規司書とその他の司書の意見の異なりとその原因を考えた。
19) 望ましい学校図 書館の運営とは— 小中学校における 司書教諭と学校司 書の協同関係を考 えるために—	2006年7月6日	「平成18年度沖縄市学校図書館研修会」に講師として参加。学校図書館と司書教諭の役割をふまえて、学校司書との協同関係をめぐるそれぞれの意見を紹介し、望ましい学校図書館運営のあり方について、議論していくための基礎資料を提供した。
20) 個人情報保護 条例と学校図書館 —個人情報保護条 例に基づく図書館 業務の再検討	2006年8月11日	「平成18年度沖縄県高等学校図書館協議会司書研修会」に講師として参加。公立高校を対象とする個人情報保護条例の内容をふまえて、学校図書館と個人情報保護との関わりを整理するとともに、学校図書館現場での事例を題材として、学校図書館における望ましい読書記録の取り扱いについて理解を深めた。

主な教育活動	年月日	摘要
5. 教育改善活動 (FD など)		
1) 2010年度授業評 価アンケート	2010年7月～8月 2011年1月～2月	担当する図書館司書資格課程科目「レファレンスサービス演習」「資料組織演習Ⅱ」「資料組織概説Ⅱ」にて実施。前年度に実施したアンケートをもとに、年度始めに「授業改善計画」を立てて、板書の精度の向上、学生参加要素の増加などを課題として取り組んだところ、いずれの科目も学生の到達度評価が高まった。
2) 授業評価アンケ ート実施の呼びか け・授業改善のた めの活用	2010年7月～8月 2011年1月～2月	日本文化学科では専任教員、非常勤教員ともに授業評価アンケート実施率が極めて低調であったため、前期後期にメール、または文書にて学科長名でアンケートの実施を依頼。専任教員、非常勤教員とも実施率が大幅に高まった。授業評価アンケートにて問題が確認された教員と話し合いの場を設け、授業改善方法についての検討も行った。
3) FD 支援プログラ ム応募・実施	2010年4月～2011 年3月	「レファレンスサービス演習」にて、本学FD支援プログラムに応募。「図書館司書資格課程演習科目における実践的・探求的学習支援プログラム」と題し、ロールプレイによる実践的な演習活動の実施のためのプログラムを開発・研究した。学生の授業に対する評価は前年度の同科目よりも高まり(3.8

		→3.9)、一定の成果が見られた。
4) 初年次教育のためのカリキュラム会議の開催	2010年4月～2011年3月(随時)	1年生必修科目「基礎演習I・II」の合同カリキュラムの作成のための会議を開催。学科長として会議の取りまとめ、進行を担当した。その結果、2011年度より合同カリキュラムがスタートし、前期はライティング指導を中心として、心の健康ガイダンス、キャリアガイダンス、環境ガイダンスなどを取り入れたカリキュラムに、後期は研究発表を中心とした、文献検索ガイダンス、就職支援ガイダンスを取り入れたカリキュラムとして再編し、スタートさせることができた。

研究業績等

【主要論文及び主要著書】

<ul style="list-style-type: none"> ① 「個人情報の保護と図書館の自由：学校図書館を中心に。公共図書館、大学図書館に及ぶ」『図書館界』Vol. 62, No. 2, 2010 ② 「個人情報保護制度における「貸出記録」の位置付け」『図書館学』第95号, 2009 ③ 「学校図書館担当者養成を意識した著作権学習」『学校図書館』2009年5月号, 2009 ④ 「読書指導と学校図書館の望ましい関係—貸出記録は読書指導の資料となりうるか?」『月刊国語教育』2009年1月号, 2009 ⑤ 「学校図書館と個人情報保護」『図書館雑誌』2005年8月号, 2005 ⑥ 「学校図書館と「図書館の自由」—貸出記録の目的外使用問題を中心に」『現代の図書館』Vol. 42, No. 3, 2004 ⑦ 連載「図書館ノート」『みんなの図書館』2011年1月号～現在 ⑧ 「学校図書館における児童・生徒のプライバシー保護—読書記録の取り扱いをめぐって」『図書館情報学研究』第2号, 2003 ⑨ 「山谷労働者と図書館」『ずぼん』4号, 1997 ⑩ 『学校経営と学校図書館』改訂版, 学文社, 2008 (共著)
--

研究分野

<ul style="list-style-type: none"> ① 学校図書館における「図書館の自由」—個人情報保護・プライバシー保護を中心として ② メディアの中の図書館・図書館員のイメージ

【Eメール・ホームページ等】

http://www.okiu.ac.jp/sogobunka/nihonbunka/syamaguchi/yamaguchishinya.html

平成23年4月15日現在